

## 編集後記

本年も年報「矢作川研究」をお届けいたします。今回発行しましたNo.9では、矢作川源流域の水源林調査から河口域の底生生物まで、幅広く野外での生態調査の結果を紹介しています。また、初めて爬虫類（カメ類）をテーマにした論文も盛りこみました。その他、室内での糸状藻類の培養およびフナ類の初期の成長を追跡した実験の報告も掲載しています。

矢作川研究所も今年で発足して11年が過ぎました。成果を出すまでに長い時間を要するのが生態研究ではありますが、既に開始してから長期間を経過した事業もありますので、これからが成果の内容を問われる正念場にさしかかっているといえます。「矢作川研究」では、今後も引き続き専門家向けの報告書として、研究成果を紹介していきたいと思います。

最後になりましたが、ご投稿いただいた皆様、論文内容チェックおよび編集にご協力いただいた方々に心より御礼申し上げます。本誌についてご意見等、ご要望等がありましたら、ぜひともお寄せいただきますようお願い申し上げます。

2005年3月

矢作川研究所編集委員会